

『ある晴れた夏の朝』

対象作品／小手鞠るい著『ある晴れた夏の朝』偕成社

弘前市立第一中学校

鎌 田 莉 央

「安らかに眠つて下さい 過ちは 繰返しませぬから」

これは、広島にある慰霊碑に刻まれた被爆者へのメッセージです。この文章を読んだ時、私は過ちを犯したのは日本だと思いましたが、これは人類が犯した過ちのことでした。

この本は、広島・長崎への原爆投下は必要だったのかということについて、否定派と肯定派にわかれてディベートをするという話です。私は否定派でした。広島の原爆で亡くなつた人は大勢います。後遺症の人もいます。戦争が続いていたとしてもそこまでする必要はなかつたのではないかと思いました。さらに、アメリカが人種差別をしていたことや、人体実験のために原爆を落としたかもしれないということを知り、許せない気持ちが強くなつていきました。

しかし、それとともに日本が犯したことわかりました。中国に一方的に攻め込み、罪のない中国人を殺した南京虐殺、ユダヤ人を絶滅させようとしていたドイツと同盟を組んでいたこと、そのドイツが降伏しても戦争をやめなかつたことな

どを知り、原爆は必要だつたのかもしれないという意見が出るのもわかる気がしてきました。わたしは、どうすれば過ちが繰り返されずに平和を創造できるのかを考えました。その時に広島の慰霊碑に刻まれた文章が本文の中に出できました。過ちを犯したのが誰なのか。その主語が、アメリカでも日本でもなく人類ということがわかつた時に、おたがいに自分たちの犯した過ちを認めなければならないと思いました。

そこで、アメリカの人はどう思つているのかと思い、調べてみました。原爆を開発、投下し撮影した、ハロルド・アグニュー博士と被爆者とが対話をした動画をみつけました。アグニュー博士は「私は謝らない。」と言つっていました。それを聞いて、原爆投下は正しいと思つてゐる人もいるとわかりました。私もアメリカ人だつたら、そのように考へていたかもしれません。でも、この本に出てくる原爆肯定派だつたナオミは「どんな言い訳が成り立とも、広島と長崎への原爆投下は許されざる行為だつたと思う。」と言つていて、私

は、この言葉に強く胸を打たれました。本当にそのとおりだと思います。日本も同じことだと思います。どんな言い訳があつても、罪のない人々の所に一方的に攻め込むというのは決して許されない行為だと思います。やはり、日本もアメリカも大きな過ちを犯したと思います。それを二度と繰り返さないようには、自分たちの罪を認め、一人一人が亡くなつた人のことを忘れずにいることが平和を創造する第一歩になると思います。

今年の八月六日、九日も、ニュースでたくさんの原爆の話

を聞きました。平和の灯や慰靈碑などからは平和への強い願いを感じました。それから原爆で家族を亡くした人や、被爆した人の話を聞きました。この本の題名の、「ある晴れた夏の朝」とは、広島・長崎に原爆が落とされた日のことです。その日は、普段の私たちと同じ朝だったのです。そこに、原爆が落とされ、大勢の方が亡くなりました。

ナオミが最後に言った「私も平和を創造する一員でいたい。」という言葉、私が平和を創造するためにできることはまだわかりませんが、私も平和を創造する一員でいたいです。